



# 東京YMCA

2016 3 月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司  
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL http://tokyo.ymca.or.jp

## 東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

# 発達障がいのある子の 社会自立のために

## アスカ ASCAクラス20周年記念講演会



発達障がいのある子どもたちに社会性トレーニングや学習支援を行っている東京YMCAの「ASCA(アスカ)クラス」が、開講20周年を迎えた。また「発達障がい」という言葉が一般的でなかった時代に、東京学芸大学の上野一彦氏・小貫悟氏と共に支援プログラムを開発。今では発達障がいの理解も浸透し、行政でもASCAと同様の支援が行われるようになってきました。しかし、高校卒業後の支援体制は十分とはいえ、知的障がいや他障がいが低いなど、課題が多いのが現状です。そのため東京YMCAでは20周年を機に、大学生への支援プログラム「STARR(Y)」を始めるとしました(II2面)。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

## 発達障がいのある子の 高校卒業後の自立準備と就労



梅永雄二氏  
早稲田大学教育学部教授

これまで約1500人の発達障がいの方の就労支援をしてきました。職場では知的障がいや精神障がい比べて理解されにくい。適切な配慮がなされず、離職率が高い。課題が山手センターには、保護者や支援機関の職員など約140人が来場。地方からの参加者もみられました。▼II2面に関連記事(文責・広報室)

環境が整ってききました。職場でも同様に適切な支援さえあれば、発達障がい者にもできる仕事は多くあります。しかし、自閉傾向などがある場合は、仕事の能力はあっても対人関係のトラブルが起きやすいという特徴があります。発達障がいの人を雇用したことのある企業に調査し

すれば解決できます。しかし、ソフトスキルについては、業務の指導だけでなく、ジョブコーチやディレクターのように、職場との橋渡し役が必要です。私が調査した会社の中で、発達障がい者が離職していない会社がありました。ここには就労カウンセラーが配置され、たとえ遅刻が続いても、余暇の過ごし方、近所つきあいなどを、近所つきあいでサポートする。まずは本人が自立して生活できる力をつける。生活できる力が基本です。その上で、私たちが企業側に働き手の特性や対応方法を伝え、環境の見直しをしていくことが必要と考えています。

## 赤三角

以前YMCA主事の先輩が「自分が主事になるのに影響があったのは、中学・高校時代に教会のキャンプで司祭に言われた言葉だった」と書いていた。「すべてのいのちを慈しみなさい。人間の苦悩を無視してはなりません。あらゆる差別や憎しみに反対し、あらゆる暴力や抑圧に対して批判的でありなさい」と▼また「朝起きた時、まず今日も神さまに生かされてることにしすまりつつ、神さまは何を心配されているのだろうかと考え、心にかきなさい。YMCAの主事を志すならばそれを日課としなさい」と▼戦争が絶え間なく起き、突然に命が奪われる。日本の中でも悲惨な報道が繰り返される。原発は再稼働され、デモや抗議の声は十分反映されていない。家庭は荒れて、誰もがこんなはずじゃないと思ってる生きていく。こういう一つ一つの出来事を、神さまが心配なさらないはずがない。むしろ神さまは、共に叫び声をあげ傷ついていく。どうせ、と諦めていく子どもの切ない思いに、神は溶け込んでおられる▼だから僕もそうしよう。一緒に泣こう。それができることを行動に移そう。YMCAは他に一体何をすべきだろうか？(高等学院 井口真)

## 発達障がいのある大学生の実態と社会自立

各大学は現在、発達障がいのある人がスムーズに大学に通えるよう配慮することが義務づけられています。この5年間で発達障がいのある学生数は約5倍に増え、約6000人が配慮を受けながら通学しています。一般に発達障がいのある人は、環境の変化への適応が難しく、大学生活

を軌道にのせることが困難です。高校では自分の授業を受けていたのに、大学では自分で授業を選んで登録し、授業ごとに自由度高く、自分で判断することが多いため、支援がないと入学後数週間でドロップアウトしてしまうこともあります。

また卒業後の進路決定もハードルの高い課題です。障がいのある学生の就職率は50%なのに対して、発達障がいのある学生に限ると30%と低く、また就職後1年以内に37%が離職しています。背景には、発達障がいへの知識をもつ就職支援スタッフの不足や、学生自身の自己理解の不足、卒業と就職活動が両立できないなどの事情があります。また発達障がいには周囲から理解されにくい障がいのため、自信をもて育ってきた学生も多く、中にはうつ病など二次障がいをかかえる人も



村山光子氏  
発達障がい大学生就労支援研究会MES代表

おり、「どうせ自分は就職できない」とあきらめやすい傾向があります。しかし彼らの弱みは、強みにもなります。同時に複数の作業ができなくても、一つのことへの集中力があります。ルールにこだわる性質を、忠実な業務遂行力として活かす。コンピュータのバグを発見する仕事をしていく人もいます。ただそのためには、職場実習など体験を積んで自己の適性をよく把握しておく必要があります。

明星大学では、就労に必要な準備をする「STARRプログラム」を開いたら誰かに相談するといふ「支援要請力」も身につけると思っています。

### 4月～新規開講「START-Y」

#### 発達障がいのある大学生への支援プログラム

発達障がいのある学生が、大学生活に順調に適応し、就職に必要な力をつけていくための支援プログラム「START-Y」を、4月から新しく東京YMCAで開講します。

このプログラムは、明星大学で開発されたものですが(=1面参照)、明星大学以外の方からも受講希望の声を寄せられていることから、東京YMCAでも開講することとなりました。

#### 【講座内容】

以下の15テーマから、必要数を受講いただきます。  
①時間の把握/確認、②予定をたてる、③優先順位を決める、④体調把握、⑤体調予防、⑥体調不良に対処する、⑦ストレスに気づく、⑧ストレス予防、⑨ストレス対処、⑩挨拶/返事、⑪身だしなみ、⑫お礼/謝罪、⑬報告/連絡をする、⑭相談をする、⑮異性・上下関係  
\*1つのテーマは4週間かけて習得していきます。

#### 【受講料】4万円～(税別)

\*1回1万円(40分×2テーマ受講)ですが、基本的に4回セットで受講いただきます。  
\*4回の受講で2つのテーマを習得できます。  
\*15種類のテーマから必要数を受講ください。  
\*登録時には登録料8000円がかかります。

#### 【会場】東京YMCA高等学院

〒169-0051 新宿区西早稲田2-18-12

#### 【最寄駅】JR線・西武新宿線・東西線：高田馬場駅

東京メトロ副都心線：西早稲田駅

#### ■説明会、体験会のご案内■

#### 【日時】3月21日(月祝)

11:00～11:45 説明会

13:00～16:00 体験会

\*体験会は、4月に入学する大学生対象で

【参加費】説明会は無料。体験会は5,000円

#### 【問合せ】東京YMCA高等学院

(通信制高校サポート校)

tel. 03-3202-0326 (月～金、10時～17時)

メール: highschool@tokyoymca.org

会場の山手センターには、保護者や専門家約140人が参加。



### 生涯を見通した支援を

東京学芸大学名誉教授 上野一彦氏  
ASCAクラス スーパーバイザー



私はこの問題に取り組んで50年になります。ASCAを始めた当時は、発達障がいという言葉もまだ知られていない状況で、支援体制もなく、子どもたちは周囲から理解されずにいじめられたりと悲惨でした。今は学校教育での支援も整い、研究も進んできました。新しい診断基準も開発され、自閉症などに含まれている「広汎性発達障害」や「アスペルガー障害」の名はなくなって「自閉スペクトラム症」に統一されたり、「アスペルガー障害」の一部は「社会性コミュニケーション症」へ移行も提案されているようです。

しかし私は、障がいの名前よりも前に、まずその子が何に困っているのかというニーズが大事だと考えています。それぞれに個性があり、診断名だけでは分からないこともあるので、目の前の子が何に苦しんでいるのかを見なければなりません。

今日ここにいらした皆さんが一番心配しているのは、中学校卒業以降のことでしょう。高校の対応はまだ遅れています。そして大事なことは就職です。親がいなくてもちゃんと稼いで自立し、社会の中に参加できること。それが私たちの願いです。

さらに私は今、この子どもたちの老年期のことも考えています。私が接した子どもたちの中で、結婚した子はわずかです。北海道には、高齢になった知的障がいの方たちが、茶飲み友だちみたいと一緒に生活しているコロニーがありますが、親もいないであろう老年期にも、この子どもたちが豊かな人生を全うできること。そんな、生涯をとおしての支援があれば、親だって安心だと思うのです。やるべき課題はまだたくさんあります。(談)

### 1面より

第1部の講演後は、小貴悟氏の司会で、会場からの相談に各講師からアドバイスがされました。

●質問1 10歳の孫が発達障がいです。母親が

いないので70歳の私が面倒みているのですが、将来が心配です。  
「上野」 まずは基本的な生活習慣を身に付け、自立できることを目標に育てることです。親ができることは、小さな失敗をさせることです。親がいて学校にいる間は、失敗しても大丈夫ですか、やらせてみるだけでいいんです。親がいて学校にいる間は、失敗しても大丈夫ですか、やらせてみるだけでいいんです。

「梅永」 自閉症の研究をしてきたエリック・シヨブは、  
「仕事を探さずして、合理的配慮をすること(構造化)」、  
「職場の同僚・上司の理解」。この3つが必要だと言っています。情報をよく集めて、理解のある環境を選ぶことが大事です。大人の社会は学校とちがって、サラ金や結婚詐欺など問題に巻き込まれるリスクもあります。理解者がいると安心です。

「村山」 得意なことにも着目して、自信をつけさせることも大切です。それが意欲になり、可能性が広がっていきます。

「上野」 伸びる子には、意地とかプライドがある。そして、プライドをもつて子には必ず理解者がいます。親でも親戚でも先生でもいいから理解者が必要です。どうか良き理解者になつて下さい。また、「LD親の会」など、ぜひ仲間を見つけて欲しい。発達障がい者を取り巻く環境はどんどん変わってきていますから、最新の情報をキャッチして、いい受入機関を探してください。

●質問2 子どもが学習障がいです。専門学校を出て、正職員試験を受

けたけれども2回落ちました。面接能力が弱くて話せない。ネガティブの傾向性も強い。  
「村山」 いきなり正職員というのはハードルが高い面もあるので、小さいステップをふんでいくのがいいと思います。私の知る学生も面接で話せ

なくて、就労移行支援センターに2年間通って、特例子会社に就職しました。面接が無理なときは「就職プログラム」や「職場適応援助者による支援」など、ハローワークの窓口で相談のつてくれませんか。  
「上野」今は障がい者を雇用しなければならぬ社会になっているし、いろんなサポートができてきていて本当に心強い。そういう知識や情報をどんどん取り入れて勝負できます。ただ、高齢者が介護認定のとき、ケアマネの前では普通でないことまでできるように見栄をはることがあるように、発達障がい者もできないことを認めたらならないことを認めたがらな

いことがある。適切な支援を受けるためには、周囲が本人の能力を把握していなければなりません。  
「小貴」 ネガティブな傾向はやむを得ないと思えます。なかなかポジティブにはなれないです。でも私は「ポジティブシンキング」とは、思い悩んで考え続けるけれども、どうしたらいいかという出口まで考え続けることだと思っています。途中はネガティブでもいい。先が見えずに苦しんでいる人は多いと思いますが、人に相談するとか助けてもらうとかしてアイディアを出しながら、就職という壁を乗り越えていけたらと思います。



講演後、歴代の担当者や講師が集まり、ASCAを育ててくださった上野先生と小貴先生にガラスの盾を贈呈。旧交を懐かしむと共に今後の課題について思いを新たにしました。

「障害者就業・生活支援センター」では、多くの職場で実習しながら就労の定着を支援してくれま

す。こういう支援機関が次々とできていくので、そういう所を探すのも一つです。

また発達障がい者は、



### 園の砂場で学ぶ 人生の知恵

芝浦アイランド子ども園には、園庭があります。195名の園児たちと一時保育の子どもたち、園庭開放でいらした地域の親子など、一日を通していろいろな子どもたちがこの園庭で過ごしています。

園庭には、直射日光を避け、長い時間遊べる砂場があり、すべり台やのぼり棒もあります。鬼ごっこやボ

ール遊びも繰り広げられています。先日、家の本棚を整理して、久しぶりに手に取り読み返した本がありました。それは10年前に購入した、ロバート・フルガム著の『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』です。その第1章の「わたしの生活信条」は、

「人格形成の上で乳幼児期の大切さを大いに語っている有名な個所でそのころ多くの保育業界誌で紹介されており、私も触発され購入したものでした。『人間、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで日々を送ればいいのか、本当に知っているか、はならないことを、わたしは全部残らず幼稚園で教

わった。人生の知恵は大学院という山のてっぺんにあるのではなく、幼稚園の砂場に埋まっていたのである。わたしはそこで何を学んだらうか。何でもみんなで分け合うこと。ずるをしないこと。人をぶたないこと。使ったものはかならずもとのところに戻すこと。ちらかしたら自分で後片づけをすること。人のものに手を出さないこと。誰かを傷つけたらごめんなさいと言うこと。食事の前には手を洗うこと。不思議だな、と思う気持ちを大切にすること。(中略)人間として知っていかなくてはならないことはすべて、この中に何らかの形で触れている。さらにそれは一人にしてみら

いと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」という聖書の言葉(マタイによる福音書7章12節)にもつながるとあります。久しぶりにこの本を読み感動を新たにしました。人として愛する心や平等な社会など大切なことが「園庭」にはちりばめられていることに気づかされました。もし、世界中の大人がこれらのことを守ることができるとして育っていったならば、もっと争いがない平穏な社会が築けていくのかもしれないとあらためて考えさせられた1冊の本でした。

宇野 雪枝 (港区立芝浦アイランド子ども園園長)

### ピンクの服で いじめに反対

#### 2月第4水曜日は「ピンクシャツデー」

ピンク色のシャツを着て、いじめ反対をアピールする「ピンクシャツデー」。カナダで始まったこの運動に今年、東京YMCAも参加しました。

この運動は、ピンク色のシャツを着た少年がゲイだといじめられたのを見たクラスメイトが、50枚のピンクシャツを配り、皆で着ていじめに反対したことから始まりました。このエピソードはインターネットを通じて世界約70カ国に広まり、2月第4水曜日は「ピンクシャツデー」と呼ばれるようになりました。2月24日、東京YMCA各部では教職員等がピンク色を着ていじめ反対をアピールしました。

■東雲児童館では、案内を見た小学生たちが自主的にピンク色の服で来館してくれました。「ピンクの服は持ってない」という子には鉢巻を貸し出し、みんなで近所に出かけてゴミ拾い！ 子どもたちは張り切ってたくさんのゴミを集めてくれました。

■高等学院では、ピンクのシャツを着るのではなく、ピンク色を主としたシャツを絞り染めで製作。個性を重んじ「虹色」を校風としている学校らしく、カラフルなTシャツが並びました。



⇒全国YMCAの様子はこちらから<https://www.facebook.com/ympinkshirtday2016/>

### 日本YMCAユースボランティア認証者

東京YMCAでボランティアをしている下記の50人が「日本YMCAユースボランティア」として認証されました。これは①16歳～35歳で、②半年以上の活動経験があり、③ボランティアの研修を受け、所属YMCAから推薦された方を対象とするもので、今年では全国で599人が認証されました。これまでの活動に感謝し、また今後のご活躍に期待します。

- |        |        |        |         |
|--------|--------|--------|---------|
| 秋山 路子  | 後藤 祐佳  | 力 さおり  | 二田 未来   |
| 石川 彩美  | 櫻井 園香  | 塚田 紗季  | 帆 苺     |
| 今津 初音  | 重原 万希  | 津島 由季  | 保坂 天蒼   |
| 大久保 朋  | 篠原 映美  | 寺山 綾香  | 前田 友子   |
| 大橋 麻亜紗 | 清水 梨花  | 渡嘉敷 大海 | 前田 優希   |
| 小川 美貴  | 須川 鮎   | 中村 健勝  | 松前 晶子   |
| 奥野 萌子  | 関真 黄乃  | 中村 有里  | 宗村 晋勝   |
| 金子 未依  | 瀬戸口 潔  | 奈良輪 翔  | 森山 真平   |
| 上垣内 謙  | 副島 麻衣子 | 根本 祐輔  | 谷田部 由花莉 |
| 倉口 大   | 高橋花 菜子 | 野村 光   | 吉行 千恵子  |
| 五加 みゆき | 田中 有沙  | 濱中 梨紗子 | 米山 実慧   |
| 小嶋 恭平  | 田邊 京花  | 原田 慧太  | (50音順)  |
| 小平 陽介  | 谷口 琴乃  | 日野原 伸也 |         |

### 東京-NY フロストバレー便り

ニューヨークに赴任して、早3ヶ月。ちょうどスキーキャンプシーズンだったこともあり、あっという間に過ぎていきました。ご存知の通り、今年のニューヨークは記録的な暖冬！クリスマスは正午には摂氏22度まで上がり、観測史上最も暖かいクリスマスだったそうです。その影響で、12月のスキーキャンプは30名強とかなり少ない参加者でしたが、1月には例年並みの寒い日も多くなり、2月のスキーキャンプは60名弱の参加者と共に元気にスキーを楽しみました。

12月、フロストバレーYMCAのスタッフと共に、「どうしたら効果的に共に仕事をできるか」といった題目で、カルチャーシェアリングの視点から研修の時を持ちました。その中で、どれだけ米国と日本に違いがあるのかを垣間見ました。

例えば、日本の面積はカリフォルニア州（全米の約4.5%）とほぼ一緒ですが、全米の約40%の人口を有し、東京の人口密度はニューヨークの約2.5倍に上ります。ニューヨー

クタイムズの売上げは約100万部なのに対し、読売新聞は900万部に上ります。またアメリカには200を越えるケーブルテレビのチャンネルがありますが、日本には半分弱しかなく、誰もが中心的に視聴する公共放送が存在します。教育システムも、アメリカは非常に多様で、誰もが同じ公教育で育つというよりは、それぞれが学び方を選んで勉強しますが、どちらが良いという話ではないです。自ずとその違いは考え方、コミュニケーションの仕方、広く文化の違いを生みます。研修では「アメリカ人が日本人のようになる必要はなく、同様に日本人もアメリカ人ようになる必要はない」「なぜ文化の違いが生じるのかを理解し、お互いに言葉を発して（察するのではなく）、理解し合うことが大切」と学びました。日本の文化を再確認すると共に、「柔軟」である必要性を強く感じた一時でした。

（在フロストバレーYMCA 嶋山徹郎）

## いのちと対話する言葉

作家・評論家 柳田邦男さん講演 新春特別午餐会



70余年にわたって俳句を詠み続けた村越化石さんの句集『籠枕』。AL Sの病床で、まはたきだ

「表現する」とは、自分をみつめ、最期の時まで内面を活性化させ、高く生きる力となっていく。またそのようにして、死と向き合い、いのちを見つめた人によって紡ぎだされた言葉は、

その人自身の支えになるだけでなく、広く継承されて、他の人も支えていくのです」と柳田さん。死というテーマにもかかわらず、新春らしい温かなメッセージに、大いに励まされた午餐会となりました。（広報室）

### 第10回子育て講演会

#### 生きる意欲が育つ子育て

東京YMCA第10回子育て講演会「Yわいハッピー」を1月23日に開催。子育て番組や保育関係でも有名な井桁容子さん（東京家政大学ナースリールーム主任）が講師を務めた。



井桁容子（いげたようこ）さん。東京家政大学非常勤講師・ナースリールーム主任。

「育事業部の年2回ある研修会のほかに、こうして学びを深められる講演会が身近に開催されたことは、現場を預かる保育者にとっては良き機会だったと思います。井桁さんは、探す気になれは子どもへの何気ない行為の中に、「宝物」を見つけることができる。その「宝物」を誰かに見

つけてもらい、認めてもらう経験が必要であると話されました。これからの社会を担う子ども達のために、親や保育者が見えないものに目を向けることの重要性を様々な立場の方々と共に学ぶ機会が与えられたと感じる一日となりました。（しのみYMCAこども園 中道幸子）

「ナチズムは壊滅した。もう終わらな。その思想は私と共に消滅する。だが100年後には新たな思想が生まれるだろう。宗教のよるに新たなナチズムが誕生するだろう」（1945年、アドルフ・ヒトラー）

「新・映像の世紀・時代は独裁者を求めた」はヒトラーについて取り上げていました。ドイツはその時代に結果として国民の総意で独裁者を生み出したのです。ヒトラーは戦い敗れて自死直前に冒頭の言葉を残しました。

#### あなた達は知っていた

NHKの特別番組「新・映像の世紀・時代は独裁者を求めた」はヒトラーについて取り上げていました。ドイツはその時代に結果として国民の総意で独裁者を生み出したのです。ヒトラーは戦い敗れて自死直前に冒頭の言葉を残しました。

NHK特別番組の最後では、ドイツを占領した連合軍がドイツ国民に対して自分たちのしたことを自覚させるために強制収容所を見学させる場面がありました。「女性は気を失い、100年後に宗教のように新たなナチズムが誕生するというのには新たな思想が生まれるだろう。宗教のよるに新たなナチズムが誕生するだろう」（1945年、アドルフ・ヒトラー）

「あなた達は知っていた」は、NHK特別番組の最後では、ドイツを占領した連合軍がドイツ国民に対して自分たちのしたことを自覚させるために強制収容所を見学させる場面がありました。「女性は気を失い、100年後に宗教のように新たなナチズムが誕生するというのには新たな思想が生まれるだろう。宗教のよるに新たなナチズムが誕生するだろう」（1945年、アドルフ・ヒトラー）

「あなた達は知っていた」は、NHK特別番組の最後では、ドイツを占領した連合軍がドイツ国民に対して自分たちのしたことを自覚させるために強制収容所を見学させる場面がありました。「女性は気を失い、100年後に宗教のように新たなナチズムが誕生するというのには新たな思想が生まれるだろう。宗教のよるに新たなナチズムが誕生するだろう」（1945年、アドルフ・ヒトラー）

「あなた達は知っていた」は、NHK特別番組の最後では、ドイツを占領した連合軍がドイツ国民に対して自分たちのしたことを自覚させるために強制収容所を見学させる場面がありました。「女性は気を失い、100年後に宗教のように新たなナチズムが誕生するというのには新たな思想が生まれるだろう。宗教のよるに新たなナチズムが誕生するだろう」（1945年、アドルフ・ヒトラー）

「あなた達は知っていた」は、NHK特別番組の最後では、ドイツを占領した連合軍がドイツ国民に対して自分たちのしたことを自覚させるために強制収容所を見学させる場面がありました。「女性は気を失い、100年後に宗教のように新たなナチズムが誕生するというのには新たな思想が生まれるだろう。宗教のよるに新たなナチズムが誕生するだろう」（1945年、アドルフ・ヒトラー）